

長井市



地下水熱



長井市庁舎

舟運の港町として栄えた、
長い歴史を感じる街なみ

山形県長井市は、かつて京都や大阪と米沢をつなぐ最上川舟運の港町として栄え、現在も街のあちこちに当時の面影を残すレトロな建物や水路が残り、市民の手で大切に守られている。

市内には白つつじ公園、あやめ公園、三淵渓谷、ながい百秋湖など見所が多く、近年は世界的にも人気が高まっている「けん玉」で有名なまちとして知られるようになった。

自然エネルギーを有効活用した
全国初の鉄道駅一体型市庁舎

山形県長井市の旧本庁舎は、市制が施行された1954年の4年後の58年に完成し、長らく市街地の中枢を担ってきたが、老朽化などの問題が顕著となり移転が決定された。

建設場所は、旧本庁舎が洪水時浸水想定区域内に位置することから、安全な場所として山形鉄道フラワー長井線・長井駅周辺を選定した。

長井駅と一体化した全長約170mの南北方向に長い建物形状となり、中心市街地の活性化も期待されている。

2021年5月に開庁した新庁舎は、自然豊かな長井の地にふさわしく「光・水・風」が持つ自然エネルギーを有効活用した最先端の庁舎となっている。

「光」では、太陽光発電設備を採用し、積雪を考慮して南側壁面に垂直設置した。「水」では、豊富な地下水を熱源とした空調システムを導入し、地中熱（地下水）利用ヒートポンプと床輻射空調により、空調熱エネルギーの削減を図っている。また、他にも無散水消雪等に地下水を活用している。「風」では、ナイトパーズ（夜間外気の利用）や高性能サーキュレーターシステム、



長井市庁舎 全景



水冷式ヒートポンプチラー

全熱交換型換気扇の採用により、ここでも空調エネルギーの削減を図った。

以上のように新庁舎は、自然エネルギーの活用や最新の省エネルギー技術・設備の導入により、環境負荷の低減を目指した「新たな長井市の顔」となっている。

長井市庁舎

所在地：山形県長井市栄町1-1
建築設計：(株)伊藤設計
建築施工：戸田那須大泉建設特定建設工事共同企業体
設備設計：(株)伊藤設計
設備施工：戸田那須大泉建設特定建設工事共同企業体
延床面積：8,533.27㎡
竣工：2021年新設
URL：<https://www.city.nagai.yamagata.jp/>

■ 設備概要

地下水対応水冷式ヒートポンプチラー
310.8kW×1台
【ゼネラルヒートポンプ工業】

